

黒毛和種肥育牛の仕上げ期における 玄米と食品残さによる配合飼料代替給与法

飼料自給率の向上を図るために、肉用牛の肥育期における濃厚飼料として飼料用米の活用が推進されています。また、カンショ焼酎粕濃縮液などの食品残さの活用が望まれています。枝肉成績に及ぼす影響、特に、肥育末期に仕上がるきめ・締まりなど肉質への影響が懸念されます。そこで、玄米（飼料用米）、カンショ焼酎粕濃縮液、乾燥豆腐粕などを混合した発酵飼料を調製し、黒毛和種肥育牛の仕上げ期に給与して枝肉成績に及ぼす影響を調査しました。

☆ 技術の概要

1. 玄米（無破碎）30%、カンショ焼酎粕濃縮液 30%、乾燥豆腐粕 11.5%を含む発酵飼料は、配合飼料よりも TDN 含量が低く、CP 含量が高いが、黒毛和種去勢牛（平均月齢 23 ヶ月、肥育開始後 15 ヶ月）の仕上げ期 5 ヶ月間の配合飼料摂取量の 60%程度（乾物ベース）を代替できます。
2. 試験区と対照区で乾物、TDN、CP、NDF、ADF およびデンプン摂取量に差がなく、日増体量も差がありません（錦江ファーム（鹿児島県南さつま市）で実施）。給与 4 ヶ月後における血漿中成分値（中性脂肪、総コレステロール、総蛋白、アルブミン、尿素窒素、 γ -GTP、GOT、GPT、ビタミン A、カルシウム、リン、マグネシウム、カリウム）は正常範囲にあります。
3. 試験区と対照区で枝肉重量、胸最長筋面積、ばらの厚さ、皮下脂肪の厚さに差がなく、歩留まりにも影響していません。また、BMS、BCS、光沢、締まり、きめ、BFS、光沢と質に差はなく、ロース芯の粗脂肪含量、脂肪酸組成、脂肪融点にも差がありません。
4. 枝肉の格付けでは、試験区で A5 が 1 頭、A4 が 5 頭であり、対照区で A5 が 1 頭、B5 が 1 頭、A4 が 3 頭、A2 が 1 頭であり、発酵飼料を代替給与しても良質な肉質となります。

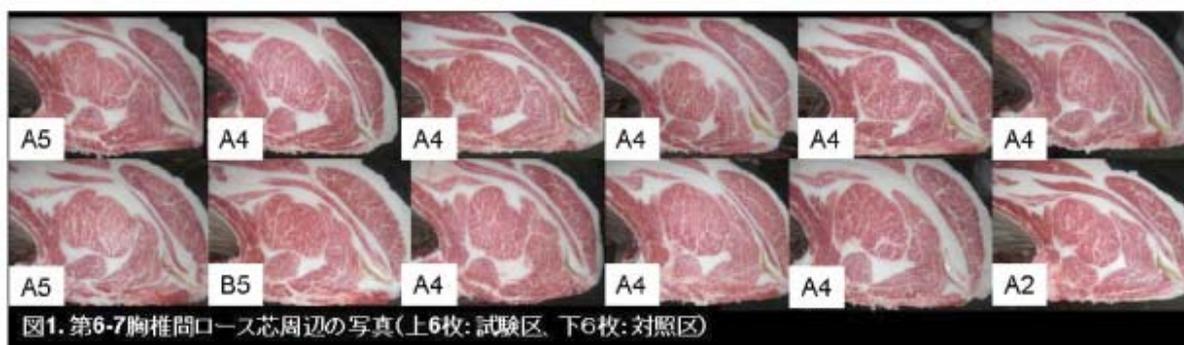


図1. 第6-7胸椎間ロース芯周辺の写真(上6枚: 試験区、下6枚: 対照区)

☆ 活用面での留意点

この成果は大規模肥育農家における実証試験の結果であり、飼料用米と食品残さによる自給飼料肥育を目指す生産者や TMR センターが、大型の黒毛和種去勢牛の仕上げ期の飼料調製給与技術として活用できますが、仕上げ期以外の給与効果は未確認です。詳細は、九州沖繩農業研究センターイネ発酵 TMR 研究チーム神谷充 (TEL:096-242-7747) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)